

平成28年度 学校評価書（前期）

学校教育目標

豊かな人間性を育み、たくましく生き抜いていこうとする生徒の育成

〈今年度の重点目標〉

良さを認め合いながら、一歩前に出て活動できる生徒の育成
合言葉は 「挑戦」と「伝統」



平成28年9月15日
大館市立北陽中学校

V 評価

A 学校運営の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
	良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
	おおむね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
	やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
	努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

I 組織運営

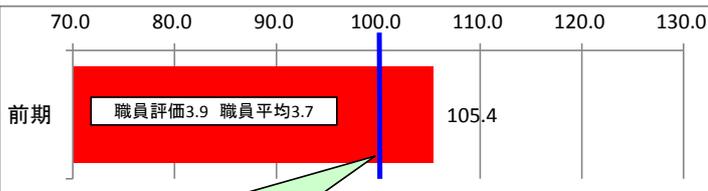
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
「挑戦」、「伝統」をキーワードに特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期 おおむね良好	おおむね良好	「挑戦」と「伝統」をキーワードとして、全職員が同じ方向を目指して取り組んでいる。「北陽スタイル」の確立に向けて、継続して進んでほしい。 副担任制や少人数指導で生徒へのきめ細かい指導や対応が見られ、生徒に寄り添った指導が進められている。
校の自己改善施策の概要と学	年度		
○開校2年目を迎え、「挑戦」と「伝統」を合言葉に、昨年度の実践に改善や工夫を加え、発展させようという気持ちで職員が指導に当たっている。三役会は必要に応じて随時開催し、学年主任会は生徒支援担当も含めて週1回実施している。学年主任会の実施については職員評価が4.0の評価であり、今後も具体的な事案をもとに情報交換のみならず、対策を見つけ実行できる会議として継続したい。副担任制の活用については、日常の教育相談や進路相談に積極的に関わるなど、生徒理解や効果的な指導に成果が見られる。今後も継続していきたい。事務職員との連携については会計処理が今年変更になったが、計画的、スムーズに処理されている。予算管理、設備管理、設備補修等が迅速かつ正確に行われており、4.2の高い評価を得ている。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 組織的運営体制の確立	(1) 運営方針の浸透	定期的な三役会(校長、教頭、教務主任)の開催と効果的な運営	3	
	(2) 学年部組織の強化	学年間の調整を図る「学年コーディネーター」の効果的な運用 副担任制を活用した学年組織の強化		
2 諸会議の効果的な運営	(3) 月1回の職員会議運営の工夫	提案事項の事前確認による、機を逃さない指導部長提案の支援	3	
	(4) 主任層教員間の共通理解の場の確保	定期的な学年主任会と運営委員会の実施		
3 事務職員との連携	(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理	事務職員との連携による事務処理負担の軽減と指導時間の確保	4	
		定期的な点検による設備管理及び予算管理の適正化		

[1に関連するデータ]

(1) 運営方針の浸透

- 校務部会、運営委員会、職員会議が機能的に推進され、各担当から見通しをもった提案が行われたか？



グラフは、職員アンケート全項目の評価平均値を100としたときの、当該項目の評価指数を表している。つまり、指数が100を超えていれば、職員は他の施策よりも良好と判断しており、100に届かない場合はその逆ということになる。

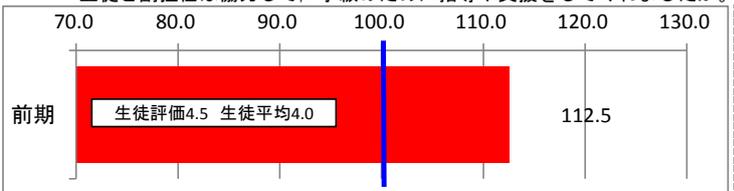
【職員アンケート自由記述】
○教室に常に複数の教員がいるので、とても心強いです。副担任の先生方や学年部の分担、協力態勢があります。
●昨年の学校の流れをその都度、確認し、全員が到達ラインを共通理解して指導していくことが大事だと感じた。担任に一任するのではなく、できるだけ全員で確認しながら進めていきたい。

【アンケート種別】 ○生徒 □保護者 ■教職員

【5段階評価】 5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや不十分 1:不十分

(2) 学年部組織の強化

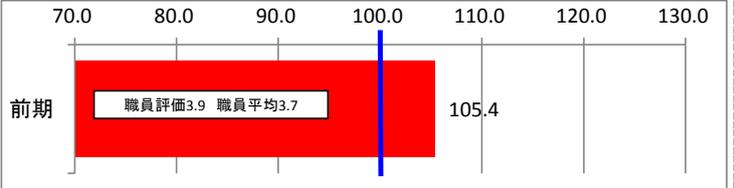
- 生徒と副担任は協力して、学級のために指導や支援をしてくださいましたか。



[2に関連するデータ]

(3) 月1回の職員会議運営の工夫

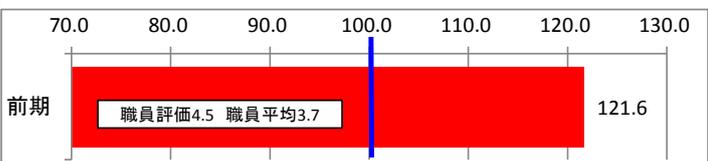
- 職員会議案件が見通しをもって提案されるような働きかけが行われていたか。



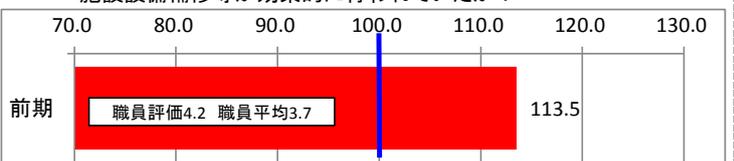
[3に関連するデータ]

(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理

- 事務職員との連携による事務処理負担の軽減がなされていたか？



- 配当予算が適切に周知され、消耗品の調整及び施設設備補修等が効果的に行われていたか？



ア 学校運営の状況

II 教師の研修

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
学校の教育活動のレベルアップのために、教職員の研修が活発に行われている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	*50分ものさしの掲示を始めとする1単位時間のスタンダード化を図るなど、確かな授業づくりがなされている。先生方へのヒアリングでも学力向上への方策がしっかり話されていたので、さらに共通理解を深めて取り組んでもらいたい。
	年度			
策 自 己 評 価 の 概 要 と 学 校 の 改 善	<p>○統合一年目の昨年度は、生徒同士が互いに気兼ねなく思いや考えを伝え合いながら学べる授業づくりを目指して取り組んできた。二年目を迎えた今年度はステップアップを図りたいと考え、生徒同士の学び合いを通して個々が高め合える授業づくりを目指している。その達成のために研修を段階的に進めている。1学期は全職員の目標と意識を統一させるために、昨年度からの職員の授業提供による相互授業参観を行った。その際、1年生にも参観の機会を設け、生徒にも目指す北陽中生像をイメージさせた。全職員による校内研究会は指定訪問の際に2回行った。教科の研究会では専門外の教科においても、本校の共通実践事項に基づいて充実した話し合いができた。授業づくりに生かされる内容となった。</p> <p>○1学期の取組から得た課題は、言語活動の在り方と校外研修の促進及び情報の共有化である。言語活動については形骸化が懸念される。何を身に付けさせるのかを熟考し、「ねらいを明確にした効果的な言語活動」を追究することを再確認していきたい。そして最終目標は「個の力を高めること」である。学び合いを通して、学んだことを確かに身に付ける習熟を充実させていく。校外研修については時間的な制約があり頻繁に機会を得られない現状であるが、研修会に参加した職員からの情報を紙面等で周知するような工夫をしていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 授業改善の推進	(6) 学び合い高め合う授業づくり	学習過程に応じた共通実践事項の設定と実践	3	
		全教科での言語活動の充実を図る実践		
		少人数学習の推進及び諸検査データの分析と活用		
5 研修の実施及び活用	(7) おおだて型学力の育成を目指した研修の充実	全員参加型の校内研究会の推進	3	
		相互授業参観の充実		
		校外研修の促進と研修成果の共有化		

(○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価(5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題)

[4に関連するデータ]

- 学習過程に応じた共通実践事項は実践されていたか。
- 少人数学習の推進と効果は上げられたか。
- 「授業のあいさつ」「聞く態度」「話し方」など、学習の約束を意識して学習できている。
- 自分の思いや考えを相手にしっかり伝え、話し合いながら学習を深めている。

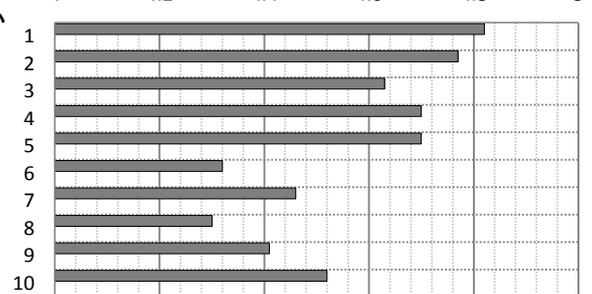
H28前期	年度
3.8	
3.3	
3.6	
3.5	



○生徒による授業評価

- 1 学習課題(めあて)は、学習することやゴールがわかりやすいように示されていましたか。
- 2 黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。
- 3 発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。
- 4 学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したりする時間が確保されていましたか。
- 5 学習内容はわかりやすいですか。
- 6 チャイム前学習を行っていましたか。
- 7 先生の質問に対して、自分の考えや思いをもちましたか。
- 8 質問や友達の意見を受けて、わかりやすく伝えようとしていましたか。
- 9 自分の意見と比べたり、深めたりするような聞き方をしていましたか。
- 10 あなたは、意欲的に授業に取り組んでいますか。

生徒の授業評価 全教科の平均値【前期】



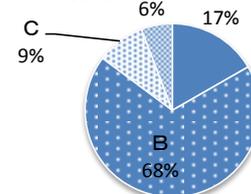
□学校での教科指導について、お子さんはどのように言っていますか。

- A どの教科も十分指導されている。
- B どちらかというによく指導されている。
- C どちらかというあまりよく指導されていない。
- D どの教科ももっとよく指導してほしい。

H28前期	年度
A 26	
B 107	
C 14	
D 9	

(単位:人)

【H28前期】



[5に関連するデータ]

- 全員参加型の校内研究会や相互授業参観の推進は効果的か。
- 相互授業参観の充実はなされていたか。
- 校外研修の促進と研修成果の共有化は図られたか。

H28前期	年度
4.1	
3.4	
2.9	

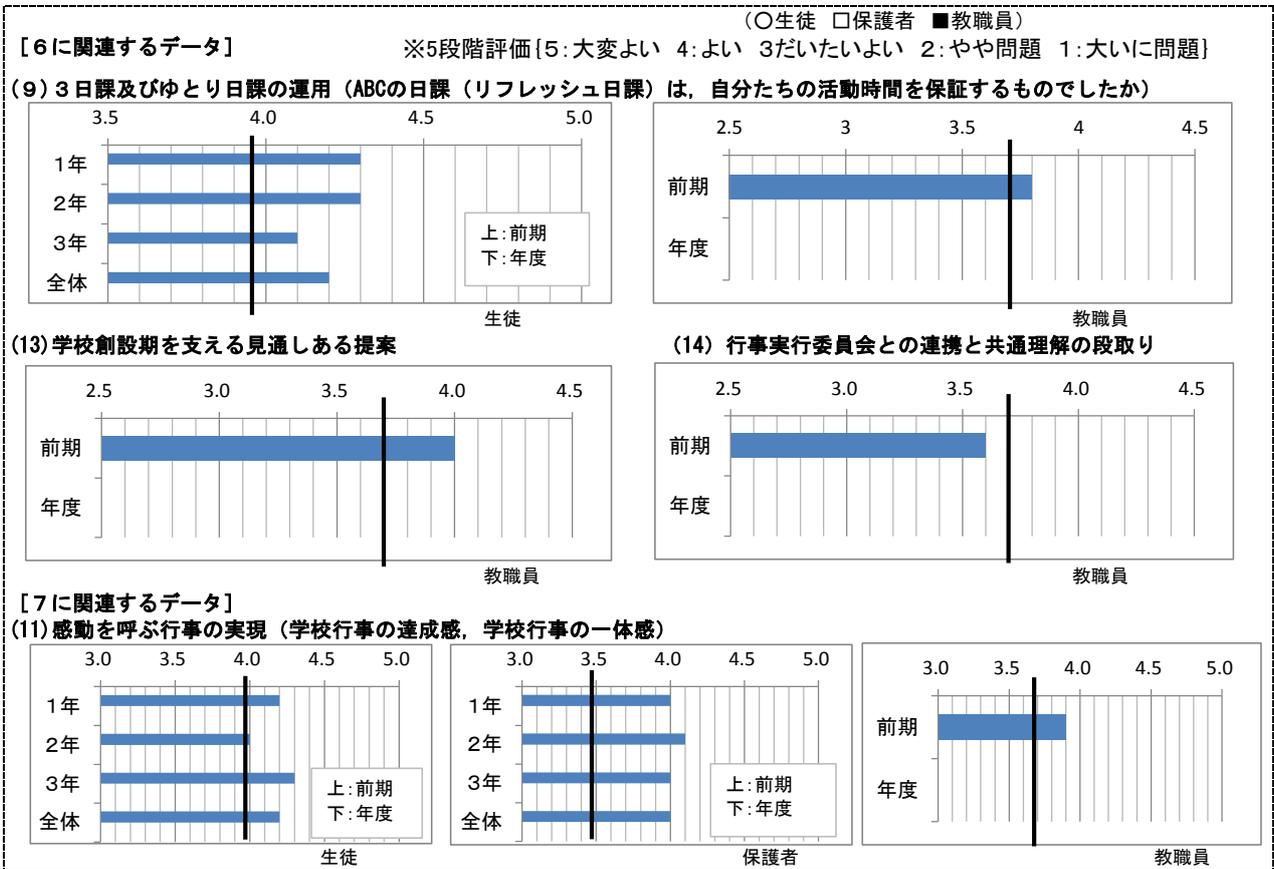


ア 学校運営の状況

Ⅲ 特色ある教育活動

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
地域に根ざした特色ある教育活動に、誇りと気概をもって取り組んでいる。	前期	おおむね良好	「学び合い」をさらに推進し、生徒同士がより深め合い、広げ合う話し合い活動が展開できるようなレベルアップに向けた取組をお願いしたい。
	年度		
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○開校2年目となり、本当の意味で真価の問われる1年だと思ふ。相変わらず多忙な毎日であるが、生徒も職員も「北陽中スタイル」を確立するために、様々な活動に取り組んでいる。今までと同様に、地域からたくさんの協力を得ながら活動に取り組んでいる。保護者の思いはそれぞれだが、学校の活動に理解を示してくださるかたがほとんどで、少しずつではあるが「北陽中学区」としての一体感が生まれてきているように感じる。</p> <p>○前期の取り組みを踏まえ、後期は次の2点を重点的に取り組んでいく。1つめは日課の工夫である。さまざまな行事が重なり、生徒にも先生方にも窮屈な思いをさせる場面が多かった。見直しをもって活動を提案し、生徒も職員も主体的に教育活動に取り組めるように支援していきたい。2つめは保護者への情報提供である。今年度は運動会が雨天で二部構成になったが、第二部の周知が曖昧で保護者から要望が出されていた。やはりこちらも、見直しをもって周知することで、保護者の協力などもより得やすい環境が生み出されると考える。教頭先生や各担当との連絡を密にして、保護者がより学校の活動に信頼を寄せてくれるように情報を提供したい。まだ1歳半の北陽中である。生徒も教師も、地域とともに成長していけるように、「見直す」「連携する」「伝える」を大切にして、本校の特色を存分に発揮できる環境づくりに努めたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 特色ある教育課程の編成	(8) 生徒の活動を支える日課の工夫	3日課及びびゆとり日課の運用	3	
	(9) 学校創設期を支える見直しある提案	職員会議案件の年間予定の提示と調整		
7 学校行事等の計画	(10) 感動を呼ぶ学校行事の実現	行事実行委員会との連携と共通理解の段取り	3	
		地域連携活動の継続(教育課程及び行事予定への位置づけ)		



イ 生徒の状況

IV 確かな学力,基本的学習習慣

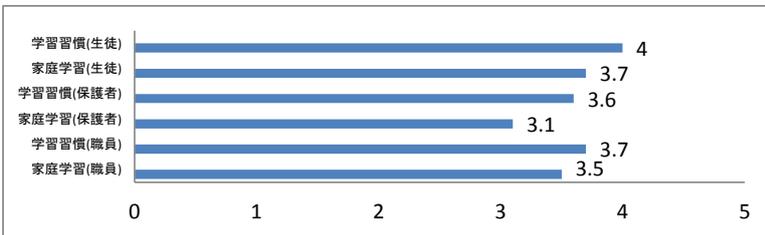
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒が主体的に学習に臨み、確かな学力を身に付けるように取り組んでいる。	前期	おおむね良好	・授業中の発表態度や話を聴く姿勢がすばらしく、意欲的に集中して学習する姿が見られた。元気よく、張りのある声が出ていた。1年生も3年生をよきお手本として北陽中生として確実に成長している。
	年度		
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○「主体的な学習態度」の学習習慣については、生徒の評価が一番高く、保護者の評価が一番低かった。家庭学習については、学習習慣よりも評価が低く、特に保護者の評価が低かった。授業の様子から、全体的には学習習慣がついてきたと感じられる。しかし、全体だけでなく、個にも目を向けて取り組んでいきたい。家庭学習については、一人勉強ノート展を行ったり、定期テスト勉強期間を設けてカードを活用したりした。今後は、家庭学習の手引きを作成したり、課題への取り組み方のよい生徒を紹介するなど、より生徒のニーズに合わせ、効果的な家庭学習につながる取組を工夫したい。</p> <p>○「授業の充実」については、言語活動の場を設けているものの、充実までは至っていないことが分かる評価だった。昨年度に引き続き、生徒は学び合いの場面では一人一人の意見をつなごうと努めている。1学期後半からは、学び合いに広がりや深まりが生まれるように、『「わかる」ように話し、「わかる」ために聞こう』という目標を掲げて、意欲や態度面からの見直しを図っている。また、効果的な学び合いには教師のコーディネート力が不可欠なので、研修部と連携して、教師の力量も高めたい。</p> <p>○「生徒の力を高める諸活動」については、ドリル学習で効果が見られた。今後も生徒の実態に合わせた手立てを講じたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 主体的学習態度の育成	(11) 基本的学習習慣の定着	各教科共通の「学習習慣項目」の提示と実践 家庭学習充実のための働きかけ(PUN, 各教科の学習アドバイス、ノート展)	3	
		9 確かな学力	(12) 授業の充実	1単位時間の効果的なコーディネート(50分ものさし、授業展開の工夫、まとめの充実)
	(13) 生徒の力を高める諸活動	ハンドサインや話型を手がかりにした言語活動の充実 ドリル学習やコラム学習、集会活動の実施	3	

※5段階評価[5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

【8に関するデータ】

主体的学習態度の育成



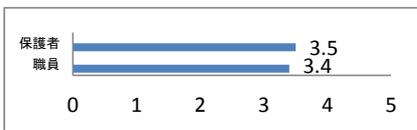
パワーアップノート(一人勉強ノート)展
6月実施



【9に関連するデータ】

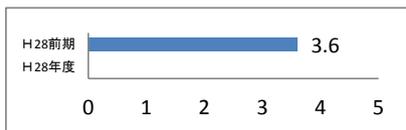
授業の充実

◆言語活動の充実



	前期	年度
生徒	発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。	4.6
	質問や友達の意見を受けて、わかりやすく伝えようとしていましたか。	4.3
	自分の意見と比べたり、深めたりするような聞き方をしていましたか。	4.4

◆1単位時間の効果的なコーディネート(職員)



	前期	年度
生徒	学習課題(めあて)は、学習することやゴールがわかりやすいように示されていましたか。	4.8
	先生の質問に対して、自分の考えや思いをもちましたか。	4.5
	黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。	4.8
	学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したりする時間が確保されていましたか。	4.7

生徒の力を高める諸活動

	前期	年度
生徒	ドリル学習で学習内容の定着を図ることができましたか。	4.2
	コラム学習では、自分の考えや思いをまとめる力が育っていると思いますか。	4.0
	フレンドリー集会では、お互いの良さを認めたり、自分の考えを積極的に話したりすることができましたか。	3.5
職員	ドリル学習やコラム学習、集会活動は効果的に実施されたか。	3.5

◀生徒アンケート自由記述欄から▶
○今年から始まったドリルの進め方がよいと思ったので、続けてほしい。

イ 生徒の状況

V 自主的・自律的な生活,望ましい生活習慣

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒一人一人の心身の状態に目を向けながら、明るく心のこもった挨拶など規律ある落ち着いた生活を実現している。	前期 おおむね良好	おおむね良好	・校門あいさつ運動では、生徒の元気なあいさつを見られたが、生徒個々を見ている教職員の評価が低いことが気になった。「あやめ運動」を意識させる方法が適切であったか、指導の徹底が図られたか、今一度生徒一人一人に目を向け、規律ある生活習慣を身に付けさせてほしい。
の自己評価の概要と学校	<p>○「あやめ運動」(元気なあいさつ、やくそくを守る、めあてをもって)に関する項目で、生徒は4.0保護者は3.6という評価であったが、教職員は2.9と低い評価になってしまった。元気なあいさつに関しては、全体ではできているものの、個々に見ると1人では元気なあいさつができていない生徒もいる。生徒会執行部の「朝こえ運動」や生活向上委員会の「あいさつ名人」の取り組みを強化して個々を鍛え、全体としてさらなるレベルアップを図っていききたい。また、約束を守るという観点から、様々な活動の時間を守ることやルールを守ることを教職員で事前に確認して生徒が落ち着いた生活が送れるようにしていきたい。</p> <p>○ノーメディアについての取り組みでは、生徒や家庭に対する働きかけが3.2と低い評価になっている。保健委員会の働きかけや保健便りでの啓発の他、学年便り等で周知させていきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
10 規律ある学校生活	(14) 集団生活のきまりの理解と遵守	「あやめ運動」の推進と自律心の育成 生徒指導共通実践事項の設定と実施 地域や小学校と連携した安全指導	3	
11 心身の健康の保持増進	(15) 健全な生活習慣	保護者を巻き込んだノーメディアデー運動の定着 早寝、早起き、朝ごはんの啓発と体力向上の働きかけ	3	
12 教育相談の実践	(16) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (17) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上	「いつでも、どこでも」教育相談の推進 多様な手立てによる生徒理解 定期的な生徒を語る会と関係機関と連携した事例検討会の実施	3	

(○生徒 □保護者 ■教職員)

【10に関連するデータ】 ※5段階評価{5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題}

(14) 集団生活のきまりの理解と遵守

- 「あやめ運動」を意識した学校生活を送ることができましたか。
- 学校生活のきまりを、しっかり守ろうとしましたか。
- 「あやめ運動」(元気なあいさつ、やくそくを守る、めあてをもって)により、規律ある学校生活が実現していると思いますか。
- 小学校や地域と連携した安全指導が、効果的に進められていると思いますか。
- 生徒に「あやめ運動」を意識させる手立ては適切だったか。
- 生徒指導共通実践事項についての共通理解が図られ、全校体制で指導の徹底が図られていたか。
- 安全指導を推進する上で、小学校や地域と連携を図っていたか。

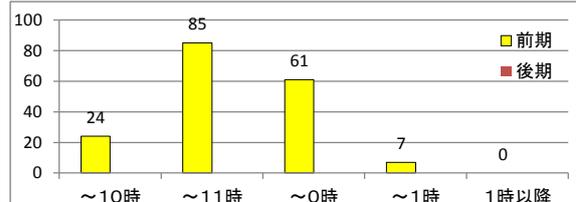
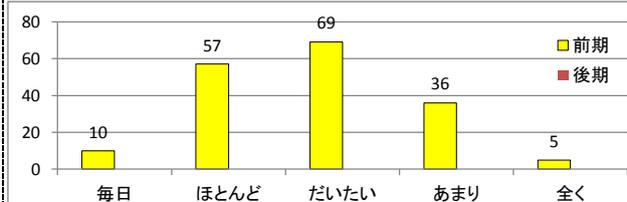
H28前	H28後
4	
4.3	
3.6	
3.6	
2.9	
3.2	
3.4	



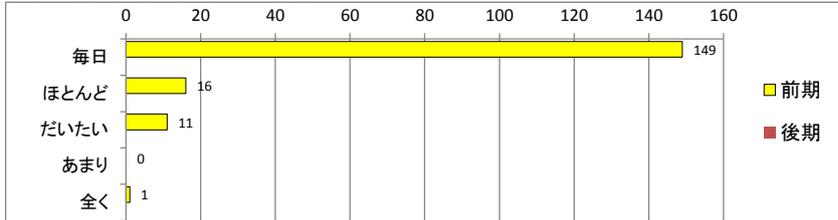
【11に関連するデータ】

(15) 健全な生活習慣

○あなたの「夜9時以降ノーメディア」の達成度は次のどれですか。(単位:人) ○ 平日の就寝時刻は次のどれですか。(単位:人)



○ 毎日朝ごはんを食べますか。(単位:人)



- お子さんと各家庭に対するノーメディアデーの働きかけは適切ですか。
- 学校の取組(チェックカードなど)は、「早寝、早起き、朝ごはん」の意識化に役立っていますか。
- 「ノーメディアデー」の取組について、家庭の理解を得る働きかけが行われていたか

H28前	H28後
3.2	
3.4	
3.5	

【12に関連するデータ】

(16) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (18) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上

- 悩み、困りごとを、友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いますか。
- より良い学級、学年にしようと努力できましたか。
- 担任やSCによる教育相談が機を逃さずに行われていたか。
- 多様な手立てによる生徒理解が行われていたか。
- 生徒を語る会や事例検討会が確かな状況把握をもとに行われていたか。

H28前	H28後
3.9	
4.0	
4.1	
3.9	
3.9	

イ 生徒の状況

VI 思いやりの心,たくましい心

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
一步前に出て積極的に活動に取組,お互いの良さを認め合い,協力し合うことができる,豊かな人間性を育んでいる。	前期	おおむね良好	・生徒や保護者へのヒアリングでは、「学校が楽しい」、「学校に行きたくないとは一度も言わない」との声が出され,学校生活が充実し,生徒の成長する場となっていることが伺えた。 ・運動会で1年生が上級生を応援したり,フレンドリー集会で真剣に話し合う場面が見られるなど,よりよい学校生活を目指した姿が見られる。
	年度		
自己評価の概要と学校の改善策	○本校で導入している副担任制では,朝の会や帰りの会,道徳・学活,面談などに,複数の教師が学級に入り,心に寄り添った指導が行われている。例えば,立志やPUNを分担して見ることによって,一人一人に手厚くアドバイスをすることができた。生徒アンケートの結果(4.5)からも,十分機能していることが伺える。「朝の会,帰りの会」は,生徒の自主性を育てる工夫がされていたか。(3.4)と,生徒の自主性については,さらなる改善が必要である。限られた時間ではあるが,学級プログラムやスピーチの中に,感想交流や振り返りを言い合えるような取組を設定したい。 ○学校行事では,学級委員や実行委員,各担当リーダーが中心となって運動会の行進や応援の仕方,競技の準備を生徒主体で考えたり練習計画を立てたりすることができた。そのため,生徒の達成感の数値(4.2)保護者の数値(4.0)と高い。教師のアンケート結果を見ると(3.5)となっている。二学期の行事「北陽中祭」では,さらにリーダーを中心とした取組ができるよう,事前指導を充実させ,より生徒の主体性を生かした行事にしたい。 ○運動会で1年生が他の学年を応援したり,生徒総会やフレンドリー集会で意見を言い合うなど,新しい場面が見られた。昨年やったからではなく,今やらなくてはならないことは何かを生徒会・委員会活動で考え,主体的に活動できるように教師側からの支援の仕方を工夫していきたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
13より良い集団生活を目指す学級・学年活動	(18) 本音で語り合える学級・学年づくり	TTによる学級経営の推進(副担任制度の導入と活用) 朝の会,帰りの会の工夫,話し合い活動の充実,学年集会の実施	3	
	(19) 学校行事を生かした「高め合う学級・学年づくり」	リーダーを中心とした学級・学年集団の育成(リーダーシップ,フォローアップの育成)		
14新しい校史を刻む気概ある生徒会活動	(20) 成し遂げる気概にあふれた学校行事	生徒会による生徒主体の学校行事	3	
	(21) 創造的委員会活動の推進	新しい校風を創る日常活動の創意工夫 定期集会(朝会)での委員会発表の工夫		

(○生徒 □保護者 ■教職員)

[13に関連するデータ] ※5段階評価[5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

(18) 本音で語り合える学級・学年づくり

	H28前	H28後
○朝の会や帰りの会で活躍する場面がありましたか。	3.9	
○悩み,困りごとを友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いますか	3.9	
○担任と副担任は協力して,学級のために指導や支援をしてくれましたか	4.5	
■朝の会,帰りの会は,生徒の自主性を育てる工夫がされていたか。	3.4	
■副担任制を活用した学級経営が図られていたか。	3.5	

(20) 学校行事を生かした「高め合う学級・学年づくり」

○お互いの良さを認め合いながら,協力して学級づくりに励むことができましたか	4.2	
○フレンドリー集会では,お互いの良さを認めたり,自分の考えを積極的に話したりすることができましたか。	3.5	
○よりよい学級,学年にしようと努力することができましたか	4	
■リーダーを中心とした学級集団づくりの育成が図られていたか。	3.5	

[14関連するデータ]

(21) 成し遂げる気概にあふれた学校行事

○学校行事での達成感ほどの程度でしたか。	4.2	
□学校行事は,学級や学年が一つにまとまって活躍できる行事でしたか。(運動会,ptaレク等)	4.0	
□保護者の皆さんと一緒に創り上げる学校行事になっていましたか。	3.6	
■生徒会による生徒主体の学校行事が図られていたか。	3.4	

(22) 創造的委員会活動

○よりよい学校を作ろうと,生徒会活動に積極的に取り組みましたか。	3.9	
○他の人の役に立つ行動や他の人を思いやる行動ができましたか。	4.0	
■新しい校風をつくる日常活動の工夫がされていたか	3.1	

◇8月の地域防災活動への参加状況(人)

生徒	地域住民	小学生
159	156	67

◇1月の地域防災活動への参加状況

生徒	地域住民	小学生



フレンドリー集会で真剣に話し合う生徒



生徒・地域が一つになった運動会



地域のみんなで防災活動

ア 学校運営の状況

Ⅶ 保護者・地域との連携

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
保護者地域との信頼関係を積極的に構築するとともに、具体的連携の基礎を築いている。	前期	おおむね良好	・地域や保護者との信頼関係が築かれており、小学校と連携した活動も推進されている。 ・PTA行事への保護者へのさらなる参加を促す手立てを工夫してほしい。
	年度		
校自 己改 善策 の概 要と学	○4月当初に、三地区の行政協力員の会合に顔を出し、学校報配付の協力依頼をすることができた。学校報を全戸に配布する取組は保護者や生徒の評価も高いので、今後も継続していきたい。1学期PTAの日程を半日日程に変更することで、保護者が授業参観からそのままレクにも参加しやすい日程に工夫した。子どもハローワークの活用は昨年と同様に自分から希望する参加が多く見られる。夏の防災活動には小学校の協力もあり、小中合同で活動する町内が多く見られた。反省としては、もっと休みの前半時期と熱中症予防のために朝の早い時間帯に設定したい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
15 情報の発信の工夫	(22) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信の発行	統合3校区を網羅する学校報配布システムの構築と運用	4	
16 大館盆地の教育力の活用	(23) PTA活動の活性化	PTA活動への積極的支援と働きかけ	3	
	(24) 職場体験・子どもハローワークの積極的活用	将来に対する夢や目標を育む実践		
	(25) 防災活動や地域行事への積極的な参加と貢献活動	3地区の地域行事に対する参加計画の立案・積極的アピール 防災活動を柱とした地域ボランティアの推進		

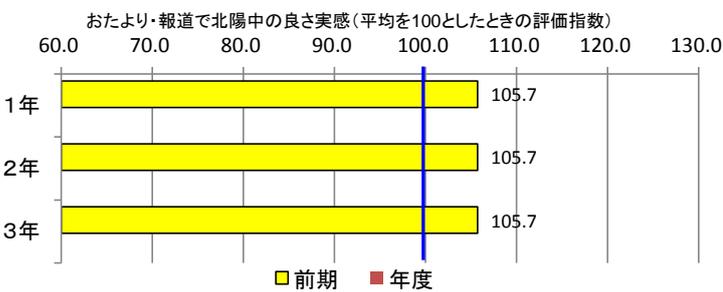
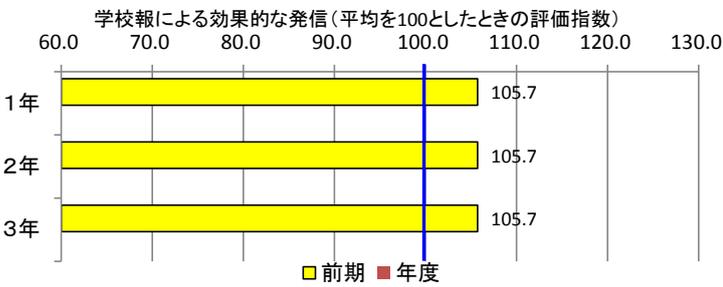
○生徒アンケート全24項目 □保護者アンケート全16項目 ■教職員アンケート全38項目

[15に関連するデータ]

(22) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信

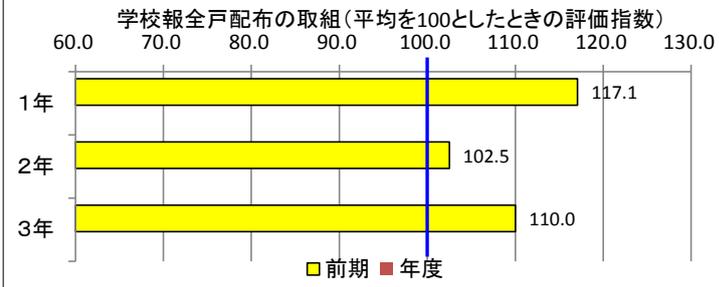
【□保護者の評価】

(評価平均 1年3.5 2年3.5 3年3.5)



【○生徒の評価】

(評価平均 1年4.1 2年4.0 3年4.0)



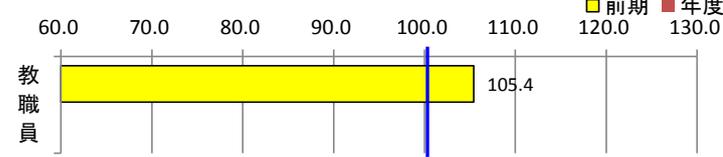
【■教職員の評価】(評価平均 3.7)



[16に関連するデータ]

(25) 防災活動や地域行事への積極的参加【■教職員の評価】(評価平均 3.7)

防災活動等への積極的な参加 (平均を100としたときの評価指数)



◎子どもハローワークの参加延べ人数 124人が参加(8月10日現在)

【地域の方々等が参加した諸行事と人数】

防災会議(7/1)	AED講習会	地域防災活動(8/7)
町内会長等 25名	生徒42名、保護者・地域 9名	地域・保護者等 156名